

8-7		主題	ケアワーカーで行える簡単なリハビリ	
リハビリ		副題	～ リハビリから生まれるみんなの笑顔！！ ～	
研究期間	8ヶ月	事業所	東京武尊会 特別養護老人ホーム 羽村園	
発表者：鈴木 良昭		アドバイザー：理学療法士		
共同研究者：白石 剛 、 遠藤 良夫 、 吉田 恵門				
電 話	042-555-8611	メール	info-hamura@busonkai.com	
FAX	042-555-8571	URL	http://www.busonkai.com/hamuraen/	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	私たち特別養護老人ホーム羽村園は平成2年社会福祉法人武尊会の第2施設とし運営開始。今年9月法人分割により新たに『東京武尊会』とし運営開始。介護老人福祉施設その他、短期入所、通所介護、居宅介護、地域包括支援センターを併設。より多くの方々のお力になれる様努力しています。介護部門では、毎年目標を掲げ今年度は『リハビリの充実』『自立支援』とし、御利用者の皆様の満足度向上を目指し取り組んでおります。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》 状況：リハビリ部門ではホットパックや赤外線療法などを行っており、日々御利用者の参加人数が多く、その為個別のADLに合ったリハビリが中々行う事が出来ない状況である。 課題：リハビリ部門だけではなく介護部門でも何か御利用者の為に出来ないか？御利用者一人一人のADLにあったものが出来ないか？と考え、課題を提起し理学療法士へ相談。リハビリの充実を図り、日々の生活に楽しみや喜びを提供する。	《研究の目標と期待する成果》 目標：リハビリ部門と介護部門の連携により個別リハビリの充実を図る。御利用者の日々の生活が充実するよう取り組む。 期待する成果：施設全体でリハビリに対する関心を高め、より充実したリハビリ、個別ケア、自立支援の3点を目指していく。
--	---

《具体的な取り組みの内容》

・介護業務を行っていく中で、理学療法士の指示を仰ぎリハビリを行う。

H氏 左片麻痺 車椅子：移動全介助

理由：御本人より自操したいとの希望あり。

期間：12月～7月(8ヵ月) 1日20分程度

手順：理学療法士の指示の基、車椅子の変更や自操訓練の実施、ベッド⇄車椅子間の移乗方法の検討。

T氏 経管栄養 居室ベッドにて流入

理由：御本人より「食べたい」と希望あり。

期間：12月～7月(8ヵ月) 1日1回摂取。

手順：御家族の同意を得て、看護師、理学療法士の指示の基、経口にてゼリーやアイスなど摂取。
御本人の意思により摂取(摂取しない日もあり)

※リハビリへの取り組みとして

- ・理学療法士からの指導、評価、助言
- ・リハビリ実施は男性ケアワーカー実施
- ・定期的な会議の開催
- ・各対象者に段階的に目標を設定し目標に向けてリハビリを実施
- ・実施記録の保存(実施時間、日時、気候、前後の対象者の様子、実施の写真撮影)

《取り組みの結果と評価》

・介護業務を行いつつの実施であった為、毎日行うことはできなかった。しかし対象者のリハビリ充実の為、少しでも時間が空いた時にリハビリを行える体制が整った。

H氏

結果：移動全介助⇒移動自操、ADLの向上。
訓練実施の結果、自ら動く事により行動範囲が広がり御本人の満足感、達成感など日常生活の活性化に繋がった。

T氏

結果：食事は経管栄養で変わらないも、おやつ程度に経口摂取する事で離床時間の確保。
日々の楽しみや他御利用者との交流する機会が増えた。それにより満足感が生まれ、笑顔が多く見られるようになった。

《まとめ》

・日々のリハビリは御利用者のADL状況の維持、向上に繋がる。今回の対象者もまだまだ可能性がある所以今後も継続していく。また対象者を増やしていき施設全体としてリハビリの充実・活性化を図っていく事で、御利用者の生活空間の拡大・生きがいの形成に結び付けていく。

《提案と発信》

【メモ欄】